

【感想】 今回、京土会による助成を受け、12月11日から14日にかけて、アメリカ・ニューオーリンズにて開催された **ICCE/IAHS International Symposium, Sediment Dynamics: From the Summit to the Sea** に参加した。参加人数が約50人程度で、常に一室で行うというスタイルの国際会議であり、常に濃厚な議論が交わされた。

私はポスターセッションにて、日本の北アルプスの流域での土砂動態のモデル化について発表した。周囲にモデル化に取り組んでいる方々は少なく、観測を中心にした話を中心という印象であったが、GISを用いたモデル化手法について等、興味を持ってもらえたように感じた。

また会議の中で、日本の河川は極めて勾配が大きく、土砂移動が活発であることや、大スケールの流域では目立たなくなるような細かい特性の社会的な重要性が大きいことを改めて実感した。

さらに、13日には現地見学として「**Inner Harbor Navigation Canal Lake Borgne Surge Barrier**」に訪れた。ハリケーン・カトリーナを受けて、工費11億ドルをかけて作られた全長1.8マイル(約3km)の巨大な防潮堤であり、ここでもスケールの大きさに圧倒させられた。以上、今回のシンポジウムへの参加は自分にとって、極めて貴重な経験となり、今後の研究に生きるような知見を得られただけでなく、今後のモチベーションにもなったと考えている。貴重な機会を与えてくださった近藤和夫様および京土会の皆さまに感謝申し上げます。